

防災教育を軸とした教科横断的な学習(国語)実践報告

神岡小学校

1 単元名

6年生国語(7時間) 「みんなで楽しく過ごすために」

2 単元指導計画

時間	学習活動	時間	学習活動
1	・災害についてインプットする。 ・避難所生活について課題意識をもつ。	5	・グループでプレゼンを作る。
2	・議題を確かめる。 ・目的と条件を明確にする。	6	・防災士さんからアドバイスをもらう。 ・防災士さんから学んだこと、家族に伝えたいことを交流する。
3	・話し合いの仕方を確かめる。 ・自分の意見を明確にする。	7	・学年で交流、まとめ。
4	・グループでの結論を出す。		

3 議題、目的、条件

議題「避難所生活で、小6の自分たちにできることはなにか。」

目的・みんなが安心して気持ちよく過ごす。  
・少しでも楽しく過ごす。

条件・神岡小学校や中学校など多くの方が避難している。  
・大人は仕事などで忙しい。  
・お金がなく、新しいものは使えない。

4 学習の様子

(1) 自分の意見をもつ

子どもたちは、避難所で生活した経験がないため、イメージが沸かなかった。そこで、動画を視聴したり、インターネットで検索したりしながら、避難所生活で自分たちができるとの主張や理由、根拠を明確にしていった。



(2) グループで結論を出す

グループごとにどの活動がよいかを話し合った。その時に、付箋を活用し①主張②具体例(実際にやること)③良い点を書いて、分類しながら行った。お互いに質問したり、つなげたりしながら意見をまとめた。

(3) 防災士との意見交流会

子どもたちが出した結論を、防災士の方に提案しアドバイスをいただく活動を通して、子どもたちの新たな気づきや本当にこれでよいのかなど、多面的に考えることを目的に、防災士(2名)と意見交流をする場を設けた。また、意見交流の際には、「子どもたちからの提案に対して、「それぞれの立場の視点」からアドバイス(できること、できないことなど)をお願いした。その後、グループごとに、①分かったこと②避難所でできること③家族に伝えたいことをグループで交流した。



5 授業を終えて

できることは結構あるんだということが分かった。しっかり動けるようになりたい。
避難所は自分たちで運営することを初めて知った。家族にも伝えたい。
何かを手伝うだけではなく、人との関わりが大切だということが分かった。

子どもたちの感想からも、今回の授業を通して学びを多く得られたようだ。特に防災士との交流会では、専門的な意見や現場経験からのアドバイスがより効果的だった。また、「家族に伝えたいこと」を考えることで自分たちの生活にもつながり、防災教育を学ぶよい機会となった。